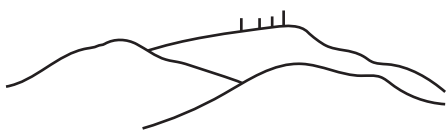


Youth Manna

2020/3/16 - 3/22



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2020/3/9(月)

II ペテロ 3 章

この手紙の目的は、聖書に書かれている預言のことばと、イエス様の命令を思い出させるためでした(1-2)。この世界は神様の御心を見えなくする様々なものに囲まれています。君にとってはどのようなものがあるだろうか？

この世界が将来どうなるのか、7~13節を読もう。新しい天と地の前に、今の世界は滅びます。しかし神様が願っているのは、「だれも滅びることなく、すべての人が悔い改めに進むこと」(9)です。イエス様もマタイ 24:14 で、「福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます」と弟子たちに言われました。福音を伝えることは、私たち一人一人に任されていることだよ！家族・友人の救いのために名前を上げて祈り続けよう！

2020/3/10(火)

ゼパニヤ 1 章

ゼパニヤはヨシヤ王(良い王様)の時代の人だったけどユダの地はその前の最悪な王のマナセやアモンの影響を受けて墮落し、偶像礼拝のはびこる時代に活躍した人でした。ユダの人々は「主は良いことも悪いこともしない」(12)と神様が無意味な存在のように生活していたけど、必ず神様の裁きがあるとゼパニヤは言い続けました。(2.14)そこにはユダの人々が立ち返ってほしいという神様の愛が隠されています。

きみは学校で神様がいないかのように生活することは無いだろうか？？コロナの影響で中々出歩けない今、当たり前だった物や時間、場所が当たり前ではなく、神様が与えてくれていたことを思い、一つ一つを感謝して祈ろう！！

2020/3/11(水)

ゼパニヤ 2 章

前章に引き続き、主の日が近いと、靈的に眠っている者たちに対して悔い改めよとの警告がされている。4節からは周辺諸国への神のさばきが記されている。中でもアッシリアは、諸国を圧倒的な軍力で滅ぼし、暴力で支配した大帝国であった。アッシリアはその絶大な力の上にあぐらをかき、「私だけは特別だ。」(15)と言っていた。しかしその大国も主によって滅ぼされる。

それゆえ、「…主を尋ね求めよ。義を尋ね求めよ。柔和さを尋ね求めよ。…」(3)と主の日が来る前に、悔い改めて正し。く歩めとゼパニヤは叫んでいる。「私だけは特別だ。」と自分をごまかして、悔い改めの機会を逃してはいないだろうか。静まって祈ろう。

2020/3/12(木)

ゼパニヤ 3 章

主の前にへりくだり、悔い改めるなら、主は私たちを高く引きあげて祝福してくださる。今日の箇所エルサレムへのさばきと救いを見るとき、そのことがよくわかる。

1、2節、「反逆と汚れに満ちた暴虐の都。呼びかけを聞こうともせず、戒めを受け入れようともせず、主により頼まず、神に近づこうともしない。」これが当時のエルサレムの姿だった。もはや神のさばきは避けられない。

神は不義を罰せられるお方である。しかし罰して終わりではなく、神は赦されるお方である。そして赦して終わりではなく、神は私たちを回復させられるお方である。神は罰し、赦し、そして同時に私たちを完全にされる。

間違っているものがあるなら悔い改めよう！完璧な方である主を信じ、信頼し、歩もう！！

2020/3/13(金)

今日は電卓の日

マラキ 1 章

当時、イスラエルの民は捕囚から帰還し神殿を再建しましたが、暮らしは楽にならず苦しい日々が続いていました。辛い状況のなか民は、神様はどこにいるのか、神様の愛なんであるのか、神様を疑い失望していました。その結果、レビ記では最良のものをささげるように教えられていたのにも関わらず自分の要らないものをささげていました。

そんな民に対してマラキ書では神様からの厳しい言葉が多くあります。しかし、主のことばは【わたしはあなたがたを愛している。】という愛の宣言から始まります。

教会に行けない日が続き、楽しみにしていたものがなくなり、わたしたちの中にどこか神様を疑う気持ちが出てくるかもしれません。信じてないとは言わないけど、従っていないことを当たり前で思っているところはないでしょうか？神様はあなたを愛しています。

2020/3/14(土)

マラキ 2 章

祝福と呪い、どっちがいいかは誰もが分かることだけど、実は祝福を選ぶのが難しいということ今日の箇所は教えてくれているよ。

神様に栄光を返さない生き方、結婚や離婚を軽く考えて繰り返すこと…当時の人々も、今の世間でもそんなに大きな罪ではないと感じてしまっている。その先にあるのは滅びだけど、それがどんなに悲しいことなのか私たちには鈍感になっちゃう部分があるんだ。逆に神様の祝福を選ぶのがどんなに嬉しいことかも同じだね。

心の目が開かれて主の心をする事ができるように、そして祝福を選び取るように祈ろう！

今日あったすべてのことを主の栄光として、お返ししよう！

2020/3/15(日)

マラキ 3 章

イスラエルの民は、収穫の十分の一をささげるように定められていましたがささげようとせず、ささげたとしても、傷のついたものをささげていました。このような礼拝の姿勢に対して、神様は「あなたがたはわたしのものを盗んでいる」と厳しい言葉を語りました。

なぜ人々はささげることを惜しんでしまうのでしょうか。それは、ささげるべきものを「自分の力で得たもの、自分のもの」と思っているからではないでしょうか。自分自身のささげる姿勢はどうだろうか。すべては神様から与えられたものであり、富だけでなく、時間や人生そのものも神様から与えられたものです。

私たちにいのちを与えてくださる神様の恵みに、祈りをもって応答しよう！神様。わたしを生かしてください感謝いたします。私のすべては神様あなたのもので。あなたから委ねられたものを正しく用いることができますように。